Ⅱ　工業用水道事業

令和４年度決算　財政補足説明

目次

1　事業実績　・・・・・・・・・・・・・・　13

2　収支の状況　・・・・・・・・・・・・・　14

3　財政の状況　・・・・・・・・・・・・・　15
（バランスシートの状況、キャッシュフローの状況）

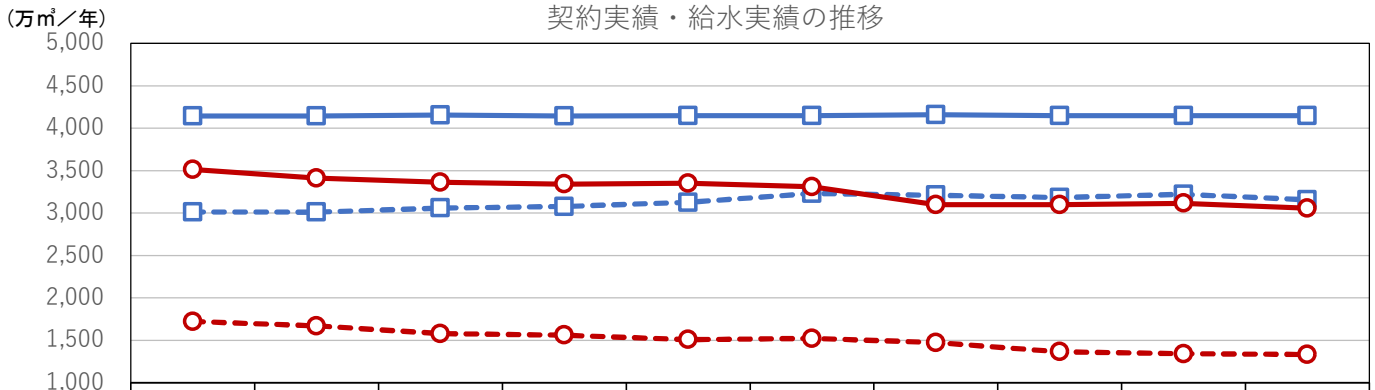
4　供給単価・給水原価　・・・・・・・・・　17
（供給単価・給水原価（渋川）、供給単価・給水原価（東毛））

5　経営指標分析　・・・・・・・・・・・・　19
（料金回収率、経常収支比率、企業債等残高対経常収益比率、
有形固定資産減価償却率、管路老朽化、施設利用率）

工業用水道事業

1　事業実績（契約水量・給水量）

ポイント	・渋川工水の、契約水量（１時間当たりの最大給水量）と給水量との差は、狭まってきている。 ・渋川工水の、契約水量は安定して高い基準を保っている。 ・東毛工水の、契約水量は減少傾向にある。 契約水量と給水量の差が大きいのは、工水の有効活用等により節水が進んだことや、夜間に使用しない製造業が多いことによるものである。



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
契約水量(渋川)	4,144	4,144	4,155	4,144	4,146	4,147	4,159	4,147	4,147	4,147
給水量(渋川)	3,012	3,009	3,058	3,076	3,124	3,229	3,209	3,180	3,220	3,156
契約水量(東毛)	3,511	3,410	3,363	3,341	3,350	3,310	3,097	3,099	3,114	3,056
給水量(東毛)	1,721	1,669	1,578	1,560	1,507	1,521	1,471	1,363	1,338	1,331

工業用水道事業

2　収支の状況

ポイント

・両工水ともに営業収益は増加したが、動力費等の維持管理費の増加が経常利益を圧迫している。

〈損益計算書〉　（単位：百万円）

		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	対前年度増減	増減率
営業収益		1,660	1,591	1,584	1,594	1,610	16	1.0 %
	給水収益	1,660	1,591	1,584	1,594	1,610	16	1.0 %
営業費用		1,364	1,403	1,525	1,501	1,614	112	7.5 %
	維持管理費	614	617	649	657	771	114	17.3 %
	修繕費	84	126	187	125	143	18	14.4 %
	減価償却費	666	660	689	720	700	△ 20	△ 2.7 %
営業損益		296	188	59	93	△ 4	△ 97	△ 104.2 %
営業外収益		298	295	300	294	301	7	2.3 %
	長期前受金戻入	166	168	173	168	169	1	0.6 %
	雑収益	131	127	127	127	132	6	4.4 %
営業外費用		166	169	130	122	127	5	4.4 %
	支払利息	112	96	83	82	69	△ 13	△ 15.3 %
	雑支出	54	73	47	40	58	18	45.1 %
経常損益		428	314	229	266	170	△ 96	△ 36.2 %
純損益		512	593	235	371	170	△ 201	△ 54.2 %
総収益		2,041	2,206	1,890	2,001	1,911	△ 90	△ 4.5 %
総費用		1,529	1,613	1,655	1,631	1,741	110	6.7 %

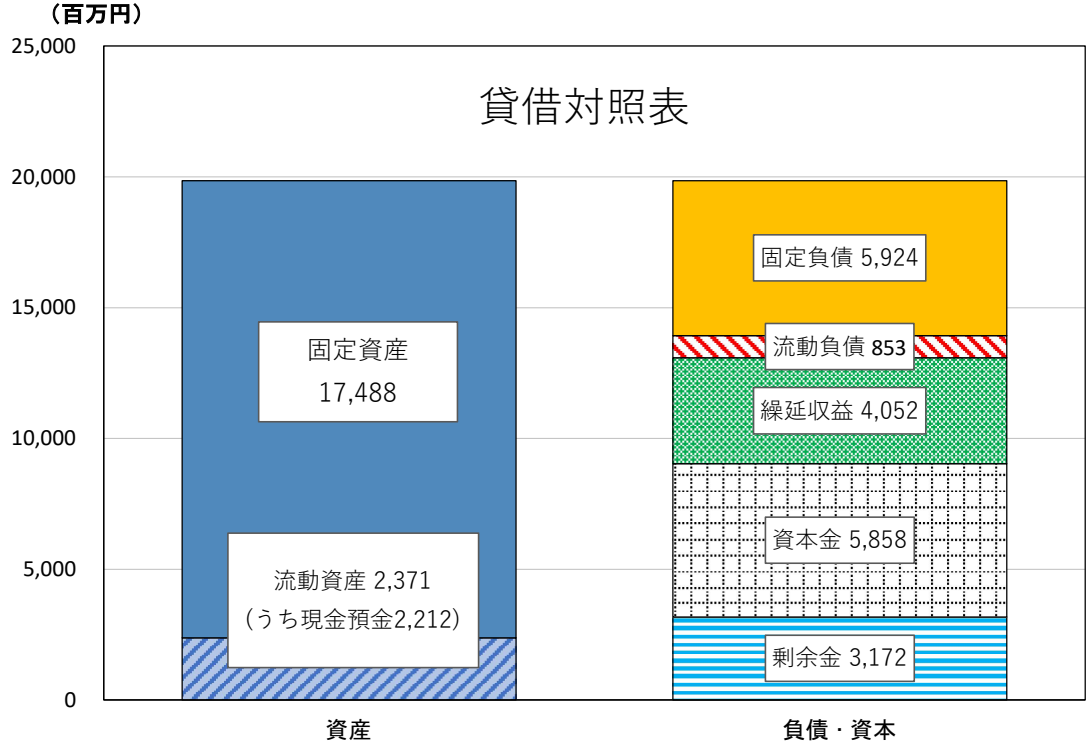
工業用水道事業

3　バランスシートの状況

ポイント

・管路などの固定資産と、現金預金などの流動資産を合わせた資産は、19,859百万円。
・企業債などの負債は6,777百万円だが、自己資本構成比率（総資本に占める自己資本の割合）は65.9％であり、経営の安定性は高い。

自己資本構成比率(%)＝
(繰延収益＋資本金＋余剰金)÷総資本



工業用水道事業

3　キャッシュフローの状況

ポイント	・現金預金の動きを示すキャッシュフローは、業務活動による資金獲得が建設改良等に伴う資金流出を上回り、現金預金は83百万円増加した。 ・今後、老朽化管路対策として、建設改良費の増加が見込まれることから、計画的な資金の確保に留意する必要がある。

キャッシュフローの状況　（単位：百万円）

	R3年度	R4年度	前年差
業務ＣＦ	**1,122**	**649**	**△ 473**
うち当年度純利益	371	170	△ 201
うち減価償却費	719	700	△ 19
うち未収金の増減額（△は増加）	16	△ 4	△ 20
うち未払金の増減額（△は減少）	189	△ 75	△ 264
投資ＣＦ	**△ 242**	**△ 261**	**△ 19**
うち有形固定資産取得	△ 242	△ 261	△ 18
うち国庫補助金による収入	0	0	0
うち工事費負担金による収入	0	0	0
財務ＣＦ	**△ 398**	**△ 305**	**93**
うち他会計からの長期借入金収入	257	285	28
うち企業債償還	△ 655	△ 564	91
うち他会計からの長期借入金の償還	0	△ 26	△ 26
資金増減額	**482**	**83**	**△ 399**
資金期首残高	**1,647**	**2,129**	**482**
資金期末残高	**2,129**	**2,212**	**83**

＋ 業務活動に伴う資金獲得

－ 建設改良等に伴う資金流出

－ 企業債償還に伴う資金流出

工業用水道事業

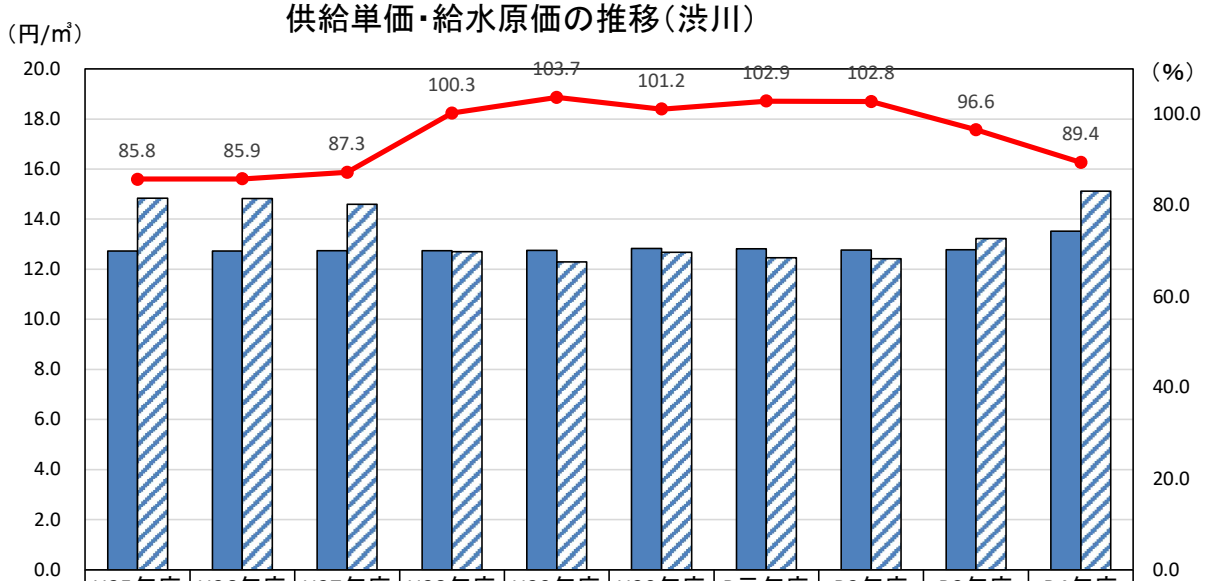
4　供給単価・給水原価（渋川）

ポイント

・供給単価を給水原価が超えており、１㎥あたり1.6円の損失を計上している。
・給水原価は、動力費の増加による営業費用が増加したため、前年度から1.9円増加した。

供給単価(円)＝給水収益÷契約水量
給水原価(円)＝(営業費用－長期前受金戻入額＋営業外費用)÷契約水量
料金回収率(％)　＝供給単価÷給水原価

供給単価・給水原価の推移（渋川）



	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
供給単価	12.7	12.7	12.7	12.7	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	13.5
給水原価	14.8	14.8	14.6	12.7	12.3	12.7	12.5	12.4	13.2	15.1
料金回収率	85.8	85.9	87.3	100.3	103.7	101.2	102.9	102.8	96.6	89.4

工業用水道事業

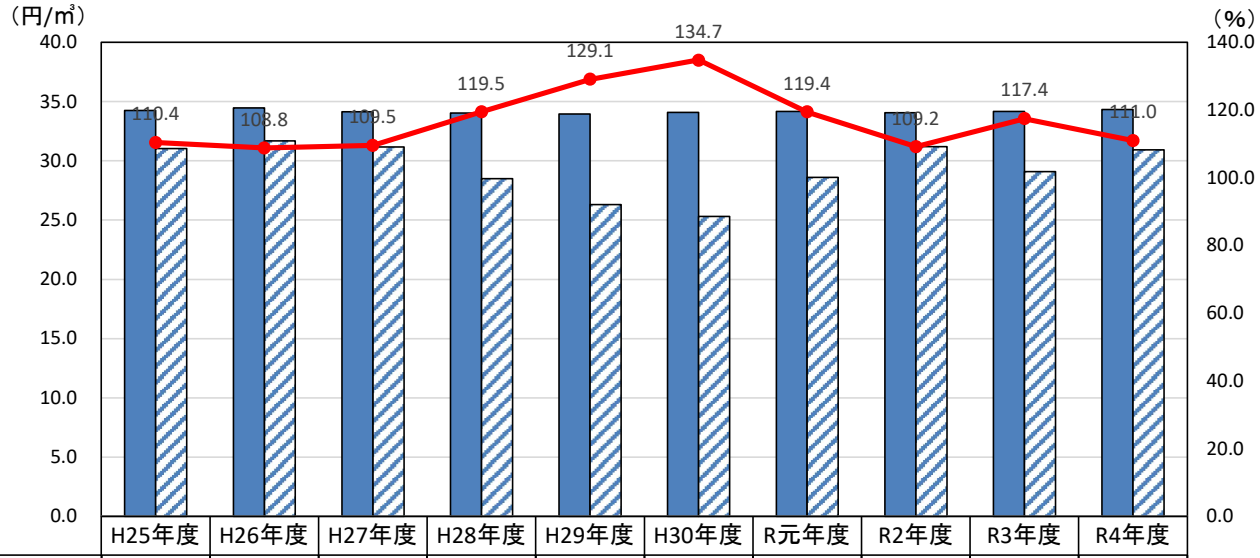
4　供給単価・給水原価（東毛）

ポイント

- 供給単価を給水原価が下回っており、１㎥あたり3.4円の利益を生み出している。
- 給水原価は、動力費の増加による営業費用が増加したため、前年度から1.8円増加した。
- 料金回収率は毎年100％を上回っており、順調に推移している。

供給単価(円)＝給水収益÷契約水量
給水原価(円)＝(営業費用－長期前受金戻入額
　　＋営業外費用)÷契約水量
料金回収率(％)　＝供給単価÷給水原価

供給単価･給水原価の推移（東毛）

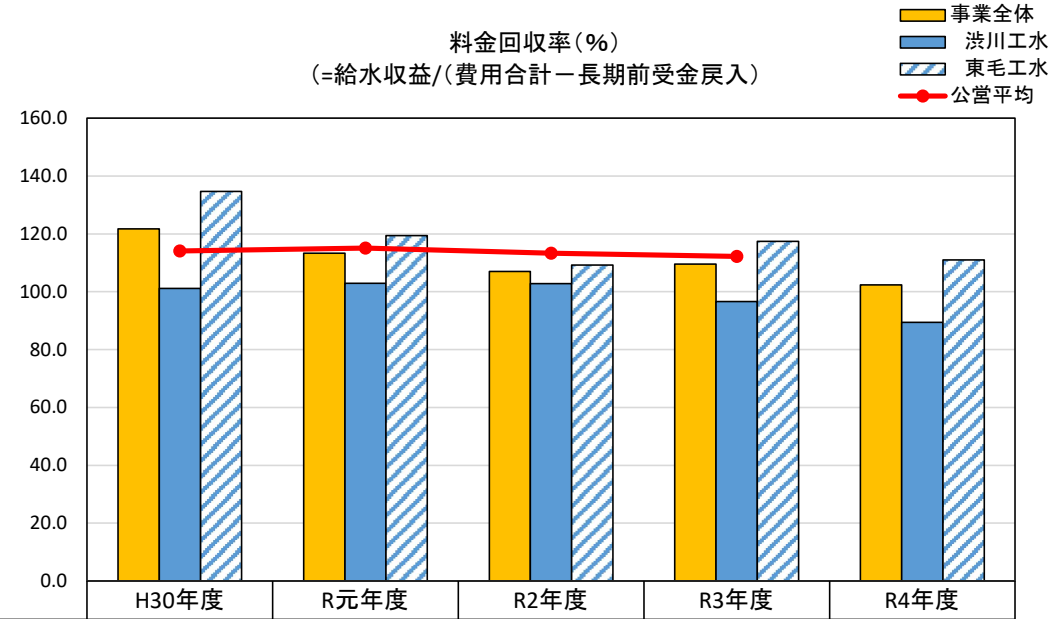


	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
供給単価	34.3	34.5	34.1	34.0	34.0	34.1	34.2	34.0	34.2	34.3
給水原価	31.0	31.7	31.2	28.5	26.3	25.3	28.6	31.2	29.1	30.9
料金回収率	110.4	108.8	109.5	119.5	129.1	134.7	119.4	109.2	117.4	111.0

工業用水道事業

5　料金回収率

ポイント	・渋川工水は、100％を下回っており改善が求められる（令和４年度から使用料金を１円増額したが、動力費の増加により改善できず）。 ・東毛工水は、低下傾向にあるものの概ね公営平均と横ばいであり良好である。



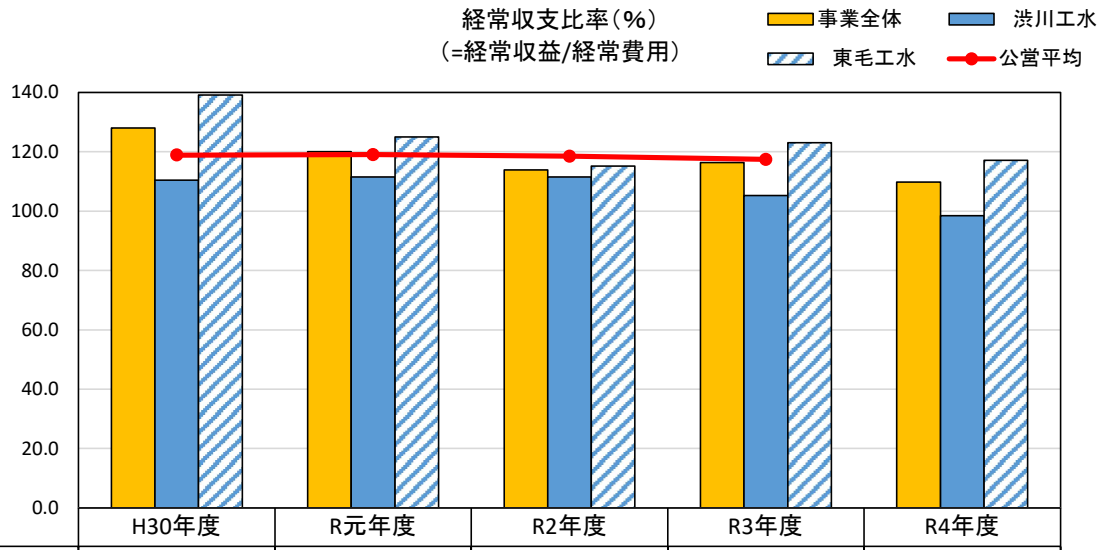
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
事業全体	121.8	113.3	107.0	109.6	102.4
渋川工水	101.2	102.9	102.8	96.6	89.4
東毛工水	134.7	119.4	109.2	117.4	111.0
公営平均	114.1	115.0	113.3	112.2	

工業用水道事業

5　経常収支比率

ポイント

・経常収支比率（経常費用に対する経常収益の割合）は動力費等の増加から低下傾向にある。
・渋川工水では、100％未満であることから経営改善を図る必要がある。
・東毛工水では、100％以上ではあるが老朽化管路の更新等の財源を確保する必要がある。

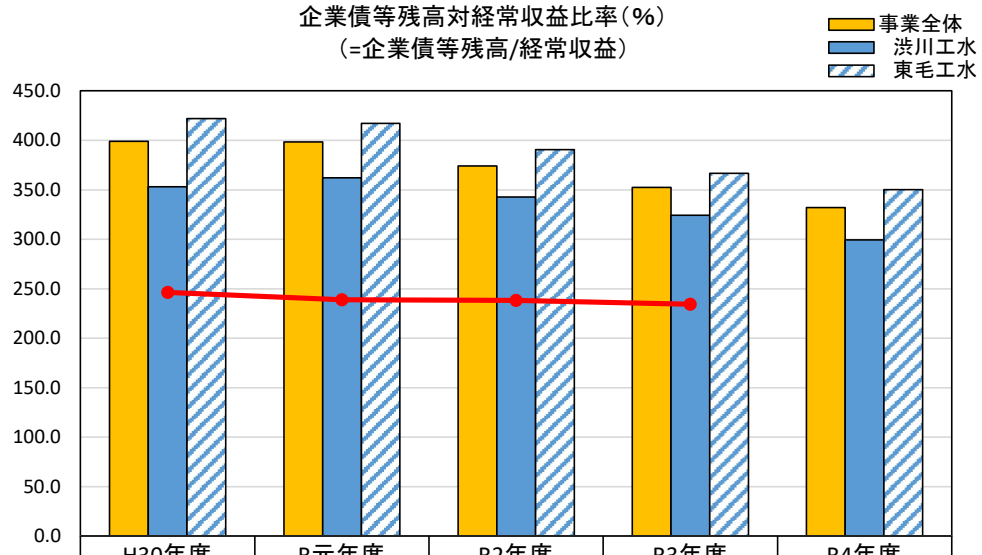


	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
事業全体	128.0	120.0	113.9	116.4	109.7
渋川工水	110.4	111.5	111.5	105.3	98.4
東毛工水	139.1	124.9	115.2	123.1	117.1
公営平均	118.9	119.0	118.5	117.4	

工業用水道事業

5　企業債等残高対経常収益比率

ポイント	・企業債等残高対経常収益比率（経常収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す）は、償還が順調に進み、改善傾向にあるものの公営平均と比べ依然として高い水準にある。 ・令和４年度末の企業債等残高は渋川工水で2,019百万円、東毛工水で4,328百万円と多額であり、今後も償還が続くことから、資金の確保に留意する必要がある。



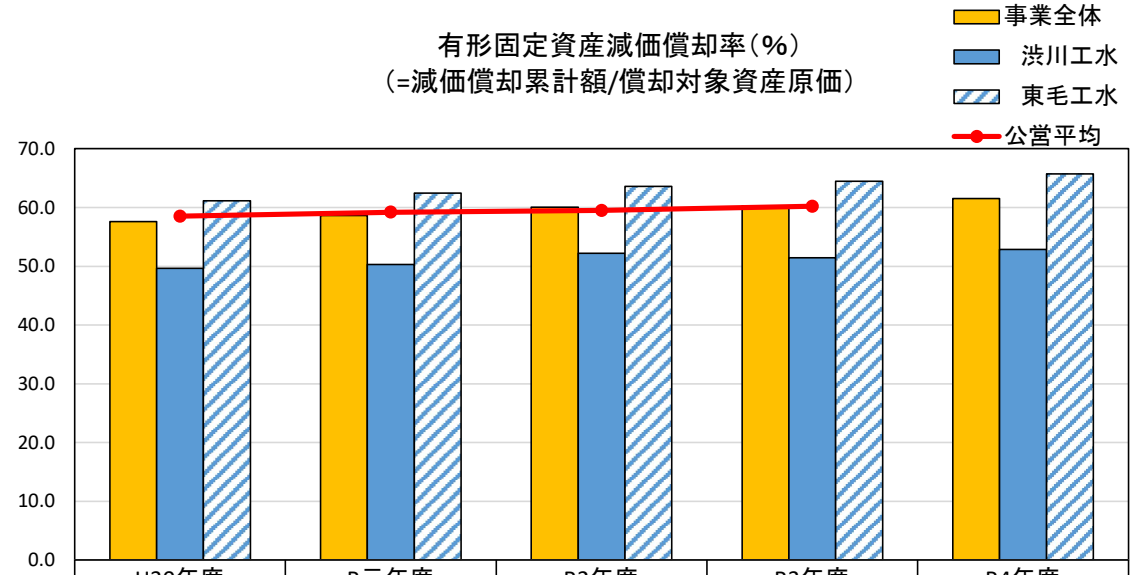
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
事業全体	399.0	398.4	374.2	352.3	332.2
渋川工水	353.2	362.1	342.6	324.2	299.3
東毛工水	422.0	417.2	390.5	366.7	350.1
公営平均	246.1	238.8	238.2	234.2	

工業用水道事業

5　有形固定資産減価償却率

ポイント

・有形固定資産減価償却率（有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す）は、両工水ともに上昇傾向にある。
・計画的な更新・改修を実施するとともに、施設・設備の長寿命化に取り組んでいく必要がある。



	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
事業全体	57.6	58.6	60.0	60.3	61.5
渋川工水	49.6	50.3	52.2	51.4	52.8
東毛工水	61.2	62.4	63.6	64.5	65.7
公営平均	58.5	59.2	59.5	60.2	

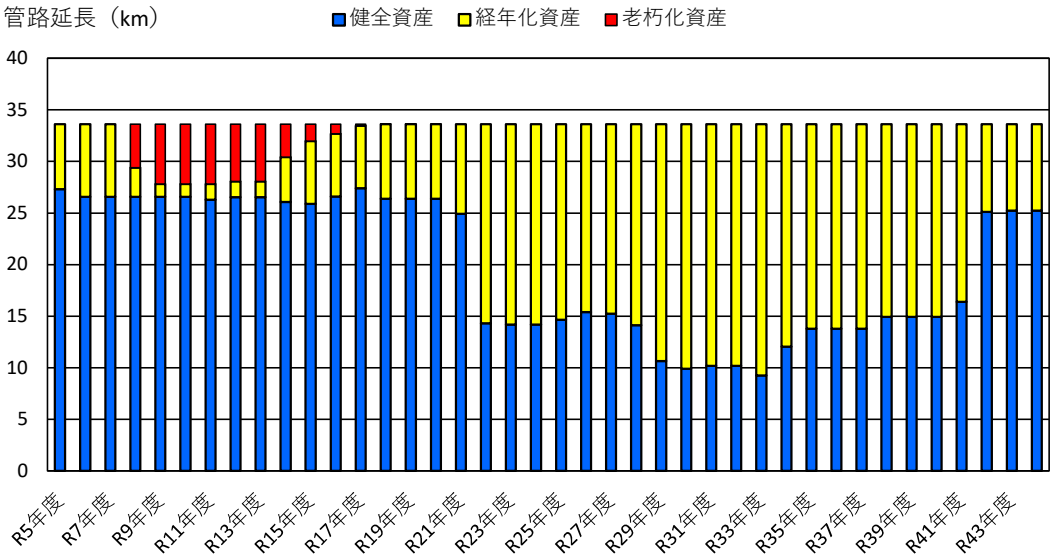
工業用水道事業

5　管路老朽化

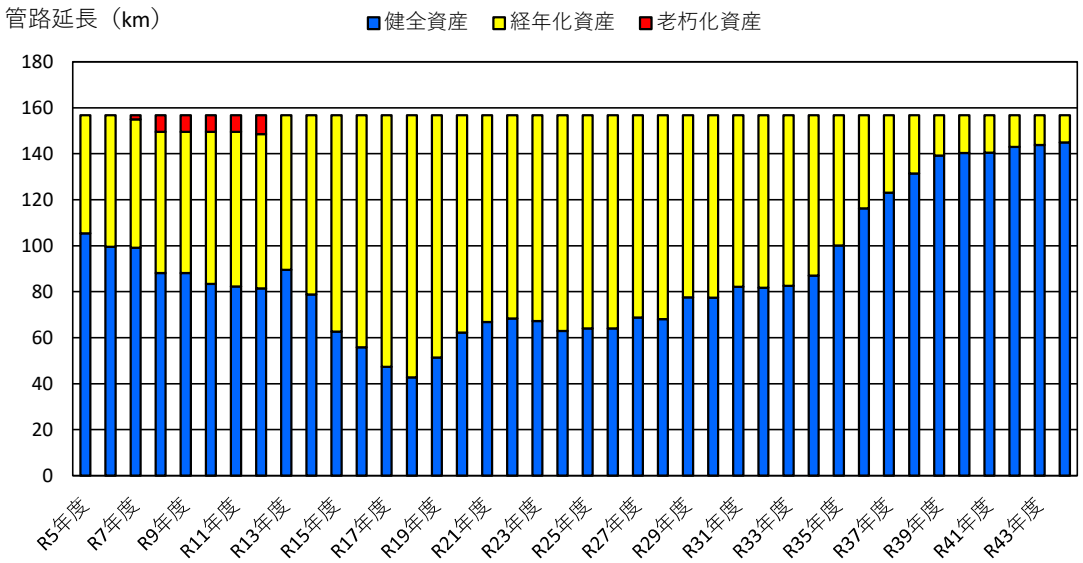
ポイント

・渋川工水では、令和８年度から老朽化資産（経過年数が法定耐用年数（40年）の1.5倍（60年）を超えた資産額）が増加する。
・東毛工水では、経年化資産（経過年数が法定耐用年数（40年）の1.0～1.5倍（40～60年）の資産額）が増加する。
・アセットマネジメントにより老朽化資産の更新を行う予定である。

管路健全度（渋川工水）



管路健全度（東毛工水）

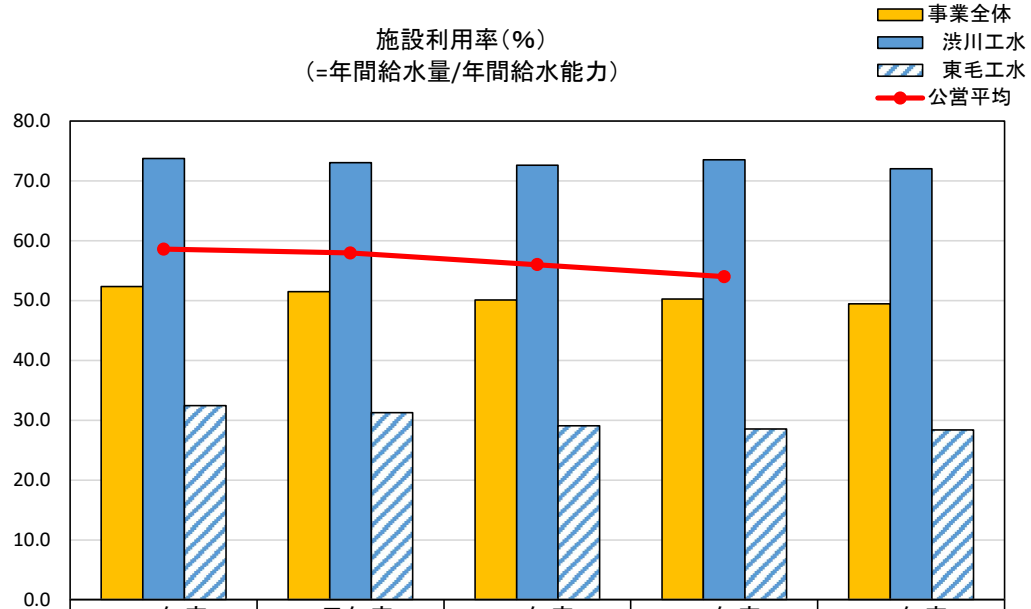


工業用水道事業

5　施設利用率

ポイント

・渋川工水は、給水能力に対する給水実績の割合が70％台を維持している。
・東毛工水は、給水能力に対する給水実績の割合が30%を下回る状況であり、施設能力の半分以上を活用できていない状態にある。



	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
事業全体	52.4	51.5	50.1	50.3	49.5
渋川工水	73.7	73.1	72.6	73.5	72.0
東毛工水	32.4	31.3	29.1	28.5	28.4
公営平均	58.6	58.0	56.0	54.0	